

起業家教育を通じた若者キャリア支援

株式会社セルフウイング
代表取締役 平井由紀子

はじめに

（株）セルフウイングは、早稲田大学経営専門大学院の大江建研究室で開発された日本型起業家教育プログラム「早稲田ベンチャーキッズ[®]」を、本格展開するべく2000年3月に設立された。その後、より教育効果を重要視した起業家教育プログラムを各種開発しながら現在に至っており、それらの起業家教育プログラムを通して子供から大人まで、起業家精神に富んだ人材の育成に尽力することを企業理念としている。

何よりも、若い世代の人々が自分の得意なことを早く見つけて、その得意なことを将来の仕事や人生に活かせるそんな力を涵養できるプログラムの開発に日々邁進している。

起業家教育の意義

（株）セルフウイングが考えている起業家教育というのは『業を起す』つまり起業するということだけを最終目標にしたものではない。勿論、自分の適性に合わせて自分のアイデアを形にして起業するという道がある人に対しては、サポートを惜しまない。ただ、各々が選んだ職業で、あるいは職場で自分が一番得意なことをどう活かしていくのか、ま

た、これから自分の仕事を選択していく高校生や大学生に対しては、「自分が一番得意なこと」は何なのかを気付くこと、その得意な事が活かせる仕事を探すこと、そのための支援をしていくプログラムである。

高校生に対してのプログラムは、小中学生に行っているのと同様の擬似会社を設立しての実体験プログラムのほかに、自分の将来をしっかりと見据えるためのきっかけとするキャリアプランプログラム、そして知的財産を販売するビジネス、特に工業高校の生徒に対しては、高校生の発明やアイデアに対して特許を取得し、それを事業化するビジネスのプログラムなどがある。

どのプログラムを受講する場合でも、私たちが受講生に願っていることは、自分の中の強みをしっかりと認識した上で、仲間を募り、それぞれの強みをさらにステップアップできる人材に育ててほしいということである。

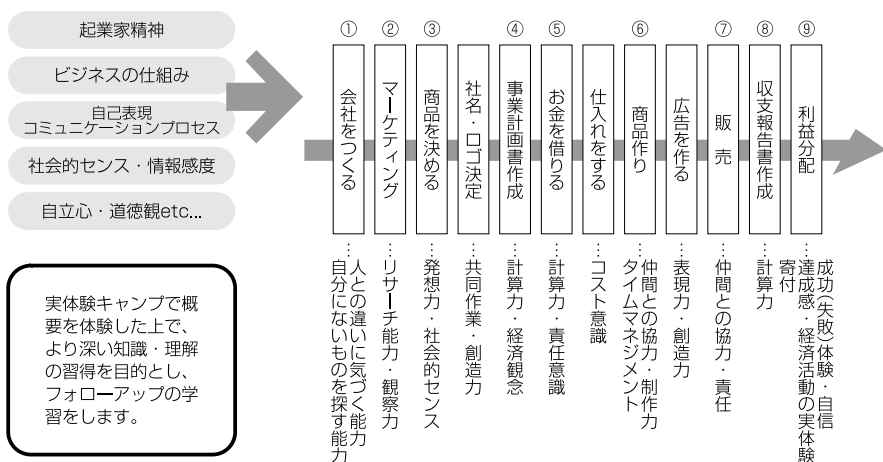
さらに、受講生がプログラムの効果を自分の力としてしっかりと身に付けるためには、受講生をサポートする指導者の育成とプログラムの効果測定の確立が必要と考えている。

高校生のための実体験プログラム （アントレプレナーシッププログラム）

このカリキュラムは、実体験をベースに作

学習の要素

カリキュラムの流れ



①会社をつくる

これから一緒にビジネスをする仲間を探し、会社を作ります。

②マーケティング

実際にお店に行き、何が売れているのか、どんなお客さんが多いのかなどを実際に調べます。

③商品を決める

マーケティングに従い、販売商品を決めます。

④事業計画書作成

マーケティングによって得た情報に基づき、いくつ仕入れて、いくつ売るかを考えて事業計画書を作成します。

⑤資金調達

事業計画をもとに、資金調達の仕組みを学びます。

⑥商品作り

銀行からの借入れ金を元に、材料を仕入れ、商品を作成します。

⑦販売

実際にお客様に接し、商品を売ります。

⑧収支報告書作成

決算をすることにより、次回への改善点などを認識します。

⑨利益分配

企業は社会の一員として、社会に対し責任があり、何らかの形で貢献すべきであるということを学びます。

高校生のための実体験プログラム(アントレプレナーシッププログラム)

られていて、自分にはない能力を持った仲間を募って会社を作り、実際の事業計画書を策定して、チームの仲間と相談しながら商品を製造し、第三者へ販売をするという一連のビジネスの流れを体験するプログラムである。

最終的に決算を行うのだが、実際に黒字だったか赤字だったかという結果だけではなく、どのような戦略を立てたから利益がでたのだろうか、どうすれば赤字を防げたのだろうか

という振り返りこそが、次のステップへつながる大切な部分である。

このプログラムの大切なポイントは次の3点である。

(1) 実体験であることを重視する

会社を作る、事業計画書を作る、本物の現金を使う、第三者に販売する、決算書を作成して振り返りを行う、その全てが実体験であ

ること。仲間と意見交換をしながら紆余曲折を経ながら目的を達成する難しさと面白さを頭と体で体験してもらいたいと願っている。

(2) トレーナーから学ぶこと 次は自分も
トレーナーになれる！

このプログラムには、受講生の能力を的確に引き出すトレーナー（指導者）がついている。予期せぬことが起きたとき、工夫して苦境を打開するにはどうすればいいか、ヒントを与えて受講生自らが解決策を出すまで導く役目を担っている。実は、高校生にとっては、小中学生のプログラムに対してトレーナーとして自分の能力を活かすという方法がある。実際に、昨年の秋に岡山のプログラムに地元の高校生がトレーナーとして子供たちを指導し、成果を上げて貴重な体験をしている。

(3) 継続してこそ効果が上がる

起業家教育は継続して受講してこそ効果上がるので、実体験のプログラムを受講した高校生は次にキャリアプランのプログラムを受け、そのあとは、後ほど説明をする各々の専門高校（商業・工業）にあわせて知的財産を事業化するプログラムを受講するというようにステップアップすることが望ましい。

我々は、実体験型起業家教育を通して受講生に潜在的な能力を開花させる気付きをさせることで、自分の得意なこととは何か、自分のどんな能力が人の役に立つのかを実感させてあげたいと願っている。同時に、学校現場の教職員の方々や保護者の方々に対しても、その大切さを理解していただき、子供が自分の得意を生かして将来の職業を選択できることが何よりも大切なのだと伝えていきたい。

キャリアプランプログラム

このキャリアプランプログラムは、(株)セルフウイングが起業家教育で培ってきたノウハウに基づいて開発されたものである。自分の興味や関心の領域に対する「気付き」の機会を提供するとともに、起業家精神の下に、それを将来の人生設計へとスムーズに連結させるように組まれている。

高校生向けのカリキュラムは、全10回（授業形態、人数、使用可能な授業コマ数に応じてアレンジが可能）を基本形としている。自己を振り返りながら自分の現在地を確認しつつ、さらに未来を計画的に描くステップをとっており、近い将来に迫っている大学や専門学校への進学、或いは就職活動に備えて、具体的な「将来設計」や「職業選択」を考える内容になっている。

以下に、高校生向けに実施する際のプログラムの流れを説明する。

- ①自分を知らう「自己分析」 自分が認識している自分、理想の自分、他人から見た自分を知ることで客観的な自分を理解して将来に活かす。
- ②幸せ度調査—影響を受けたこと 自分が何を幸せと感じるのかを客観的に把握する。
- ③仕事に対する価値観を知る 自分のライフスタイルを考えて仕事を選択しよう。仕事を選ぶとき何を優先するのかを考えてみる。
- ④働き方の長所と短所 会社員や公務員、起業家や自営業など働き方によって異なる長所と短所を考えて自分に合う仕事を探す。
- ⑤仕事に対する自分の考えを知る 希望

する仕事を考えた上で、所得や知名度、将来性などどんな点を実際には重視しているかを知る。

- ⑥ 5年後・10年後の自分 自分の予想する将来を自由に描いてみる。仕事、家族、趣味、年収などあらゆる角度から探っていく。
- ⑦ プレゼンテーションに備える 自分の情報を集めて適切に自己PRするには何が大切か？人前で発表するための準備をする。
- ⑧ キャリア計画と行動目標 自分のキャリア計画をまとめる。それを元に、今年1年何をやるかを具体的にまとめていく。
- ⑨ 発表と講評 1人3分を目安に自分のキャリア計画を発表する。クラスメートの発表をしっかりと聞く。講師の講評を受ける。

このプログラムの基本カリキュラムは上記のような流れになるが、総時間数や内容をアレンジできることが特徴である。

たくさんの人数に対して、「世の中にどんな仕事があるだろう？」という点を重視するばあいは、職業検索サイトを利用したり、仕事の種類や内容を詳細に調べたりする。

自分の適性を探ることに重点を置く場合は、自己分析の部分を増やして、適正診断テストを取り入れたり、自分が得意なことを表現する時間を増やしたりして対応する。

さらに、就職を視野にいれたばあい、プログラムの最後に実践マナー講座を加えて実社会で役立つスキルの習得にあてることも可能である。

いずれのアレンジをした場合も、コアとなる理念は、自分に関する情報を的確に整理して、具体的な職業選択の方向性を探るとともに充実したライフプランの確立への動機付けを行っていくということである。

さらに、大学や専門学校へ進んだ生徒に対しては、さらにステップアップしたキャリア

プランプログラムが用意されており、進級にあわせて卒業後の進路を具体的に考えるカリキュラムとなっている。また、オプションとしてビジネスの基礎講座やアセスメントテストを織り込むことも可能である。

TLOスキームを利用した 工業高校向けプログラム

TLOとはTechnology License Organizationの略で、大学などの技術を産業界に移転するための技術移転機関を指している。どんなことをするかを簡単にいうと、大学内の発明で特許をとって、その特許の使用権を企業に売るということ、そのままでは埋もれてしまう発明に光を当てて、世の為にそして人の為に役立てられるように大学と産業界が連携しようとするマッチングシステムの一つといえる。

これを工業高校のカリキュラムへ応用することで、工業高校の生徒たちが考えたアイデアや研究成果を世の中へ出すプログラムといえる。

平成16年4月に経済産業省と特許庁から出された「特許庁における大学支援の取り組みについて」という提言の中で、大学内の研究者に向けた技術移転支援に対するさまざまな取り組みとともに、初等・中等教育機関への知的財産教育についての提言がまとめられている。

その中で、工業高校や商業高校などの専門高校に対しては、社会での知的財産の役割を知ることや、産業財産権の手続き能力の習得を養成することが必要とされている。

高校生がTLOを応用したプログラムを受講するメリットとして次の2点がある。

- ① 知的財産についての学習が早期の段階でできること。
- ② 知的財産を販売する為に、授業やクラブ活

動との兼ね合いなど時間的制約要件が、例えば会社を設立して運営することと比べて比較的軽微であること。

工業高校の利点を最大限活かす形で、自分たちで考えたアイディアや技術開発を「権利にする」基礎実務能力から、「権利を社会に役立てる」応用実務能力を身に付けることが、このプログラムでは可能といえる。

不確実性の高い21世紀の社会で、特に我が国では少子高齢化社会がますます進む中で、若者は一人ひとりが本当の意味で、強く、賢く、そしてたくましく生きていくことが必須となっている。「変化の激しい社会に生きるための資質」を起業家教育プログラムを受講

することで涵養できるように、(株)セルフウイングでは日々プログラムの開発・検証に取り組んでいる。

世の中を強く生きぬく力は、成長する過程で学校現場や家庭、地域社会において、選択の機会を与えられ、挑戦と失敗を繰り返しながら経験をつみながら育まれていくと信じている。気の遠くなるような作業でもあり、反面日常生活で工夫しながらできることでもある。若者が自分の得意を見つけてそれを活かせる仕事を見つける、そして社会という天空に向って経済的センスを身に付けて自分の翼で飛んでいけるように、我々も挑戦し続けたいと願っている。

チャレンジライセンス

危険物取扱者テキストシリーズ

丙種危険物取扱者テキスト

Co.6374 B5判 128p. 定価800円

乙種4類危険物取扱者テキスト

Co.6372 B5判 152p. 定価800円

乙種1・2・3・5・6類危険物取扱者テキスト

Co.6376 B5判 136p. 定価950円

工業資格教育研究会

消防法改正に対応

別売問題作成CD-ROM **Co.6375** 丙種、**Co.6373** 乙種4類 各定価3,150円
(実戦問題・総合問題・模擬問題に補充問題を加え収録。丙種、乙種4類のみ)
ご採用校には問題作成CD-ROMをサービスいたします。

- 消防法改正、危険物の規制に関する政令の改正、に関する規則の改正に対応。
- 学習内容について、出題のポイントにしばった簡潔な解説。
- 解説にはイラストを満載！わかりやすく展開。
- 計算問題には「例題」を設け、解法を解説。
- 実戦問題・総合問題・模擬試験など実力養成のための問題収録。
- 同一の問題を3回チェックできる解答欄。別冊解答は解説付き。

